



ルドルフ基金

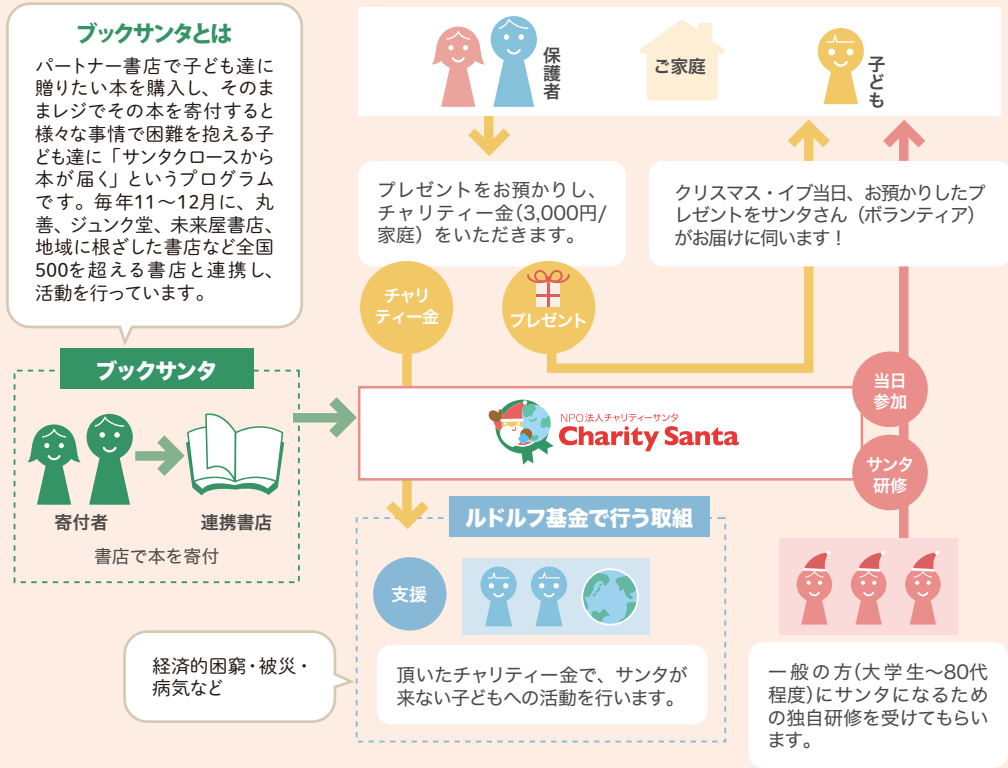
ルドルフ基金のご紹介

活動の仕組み
クリスマスに家庭へ思い出を届けるサンタクロースの訪問活動、皆様からお預かりした寄付金を使用して厳しい環境にある子ども達の支援を行うチャリティー活動の2軸で活動をしています。困窮状況にある子ども達への活動には、ブックサンタを通じて集まった新品の本をプレゼントとして活用しています。

※困難を抱える家庭
経済的に困難を抱えている家庭、ひとり親でしんどさを感じている家庭、被災家庭、病気などを抱えている家庭などを想定しています。

ルドルフ基金活動について
様々な事情で困難を抱える家庭と子ども達に、思い出を届けることを目指して、2015年より「ルドルフ基金プロジェクト」をスタートしました。クリスマスをはじめとし、誕生日や心に残る思い出の支援を行っています。童話「赤い鼻のトナカイ」の歌詞にある「暗い夜道を真っ赤な鼻で照らし、サンタを運ぶトナカイ」である「ルドルフ」から名前をもらい、ルドルフ基金と命名しました。

ルドルフ基金とブックサンタの流れ・図解



困難の中にある子ども達に特別な思い出を

あなたもサンタクロースになれる

3つの方法



クリスマスは誰もが知っている特別な日です。「誰もが知っている日」だからこそ、様々な人が関心をもつ・行動できるきっかけとなります。一般市民のボランティア、企業や資源を持つ団体と連携を通じながら、地域社会と「地域の見えにくいところで困っている子どもたち」が繋がっていきける仕組みをつくること。これが私たちのできることなのではないかと考えています。どんな環境にいても、すべての子どもたちが笑顔になれる1日めざし、チャリティーサンタがみなさんと一緒に始められる3つの方法をご紹介します。

1 サンタクロースになる

現在、サンタクロースの希望に対し、なり手(ボランティア)が不足しています。サンタクロースが増えれば、思い出を届ける先の子ども達も増えます。全国の支部であなただけのサンタクロースの参加をお待ちしています。

10月頃受付開始



2 寄付に参加する

ルドルフ基金の取り組みを通じ、子どもたちの思い出を届けるための準備・仕組みづくりやプレゼントに使用させていただきます。皆様の思いを形にし、子どもたちにサンタクロースをお届けします。

3 団体・企業連携

私たちだけでは思い出を届けられない子ども達がまだまだたくさんいます。家庭への広報の協力や体験の場を一緒につくることなど、様々な連携をお待ちしております。

活動報告は
コチラを
ご覧ください



団体概要

団体名称: NPO法人 チャリティーサンタ / 代表: 清輔 夏輝

活動地域: 30都道府県42支部

札幌、美瑛、秋田、盛岡、仙台、女川、甲府、新潟、上越、群馬、つくば、さいたま、千葉、我孫子、北東京、南東京、文京、世田谷・明治大学、多摩、横浜、湘南、相模、静岡、浜松、名古屋、三重、大阪、神戸、奈良、岡山、津山、広島、愛媛、香川、福岡、北九州、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄
※倉吉市社会福祉協議会(鳥取県)とパートナー連携をしています

公式Facebook 公式Twitter

事務局: 東京都千代田区飯田橋一丁目8番9号
ニューシティハイツ飯田橋707

問い合わせ: 050-3586-0859

連絡先: info@corp.charity-santa.com

※各支部へのお問い合わせは、公式HPより
(チャリティーサンタで検索)

チャリティーサンタ 検索



見えにくい子どもの 貧困のために 助けてを言いやすく

子どもの貧困は見えにくく、また本人やその家庭が「助けて」と発信するのも困難と言われています。私達は、「クリスマス」という行事が子育て世帯にとってニーズが高く、「助けて」と手をあげやすい機会になるのではないかと考えています。この取り組みが家庭と支援をつなぐきっかけにできれば、地域社会で家庭の課題を支えることに繋がっていくのではないかと考えます。

シングルマザー3人に1人が「クリスマスなんてこないでほしい」

子どもがいる現役世帯の相対的貧困率は15・1%であり、そのうち、ひとり親世帯の相対的貧困率が54・6%と、大人が2人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となっています。^{※1}

チャリティーサンタでは対象家庭の実際の生活や状況に対しての想いを確認するために、シングルマザーを対象に調査事業を行いました。

^{※1}『平成27年版 子ども・若者白書』厚生労働省

2017年度の調査結果では「クリスマスなんてこないでほしいと思うことがある」という設問に関して「ある」と回答したのは36・9%で、シングルマザーの3人に1人が「思ったことがある」という結果になりました。

その理由としては「お金がかかる」「時間がかかる（余裕がない）」「母子ふたりで寂しいから」という回答が目立ちました。

クリスマスが家庭の中におけるの最重要イベント※であるのは変わらないのに対し、「子どもを落胆させたくない」という思いから、金銭的な圧迫やプレッシャーを感じている家庭が多いことがわかります。

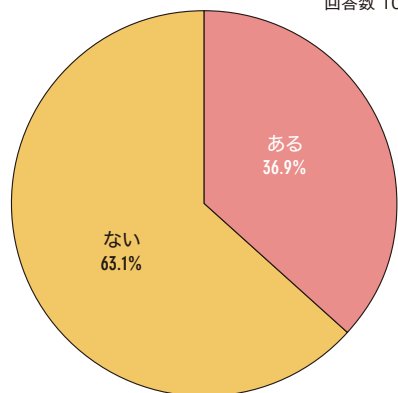
※「サンタ白書2017」

「他の家庭との比較が怖い」そんな声も。

実際に2017年度の申し込み家庭には「昨年のクリスマスはプレゼントどころか夜中に半額になったケーキを購入するののためらった」「子どもが他の家庭と比較しないで済むため、冬休みに入っていたことだけが心の救いだった」という声も届いており、その切実さが伝わりました。

クリスマスなんてなくてもいい、来ないでほしいと思ったことがありますか？

回答数 103



子ども達の様子

来ないと思っていたサンタが来た時の感動

サンタを見たことがない4歳の娘。サンタから直接プレゼントをもらったこともないため、「うちにはサンタが来ない」とぼやいていました。

クリスマスイブ、オートロックの画面に映し出されたサンタを見て絶叫、そして落ち着かなく部屋を走り回り、体全体で喜びを表現していました。実際、玄関での対面の際は、かなり恥ずかしかったようで、照れて隠れたりしていました。でも、温かく対応していただき、徐々に緊張もほぐれ、とても楽しい時間を過ごせたようです。

サンタさんが帰った後も、サンタさんとの会話を何度も繰り返していました。素敵な時間と夢を与えていただきありがとうございました。今回はひとり



親粋での応募でしたので、無料に対応していただきました。サンタさん、スタッフの皆様、絵本の寄付をしてくださった方々など、多くの方々に感謝いたします。

娘が成長したときに、今度は夢を与える側になってもらえたら母としては嬉しい限りです。

久しぶりに見れた笑顔

今回被災して仮設住宅に引っ越したから、と心配する娘。夜プレゼントを持ってくる場所を確認して来てくれたのだと伝えると安心していました。自分の名前を知っていることにも驚いていました。7歳の次女は人見知りなので緊張していましたが、お話をしたりプレゼントを頂いてからは興奮していました。被災してから、カメラを向けてもあまり笑ってくれなくなっていました。サンタさんのお陰で笑顔の写真が撮れました。



保護者の生の声

ママの小さな味方にプレゼントを届けたい

息子の父親は息子が0歳の時に亡くなりました。突然のことで、もちろん息子に父親の記憶はありません。一緒に誕生日やクリスマスをお祝した記憶もありません。息子が12月生まれなのですが、誕生日もクリスマスもプレゼントをあげるというのは経済的に厳しいです。保育園のお友達のお家ではパパがサンタ役をやってくれたりすると思いますが、うちではそれができません。3歳ながらいろんな事情を理解し、家のお手伝いをし、ママを助けてくれる息子に、サンタさんからプレゼントを頂けないでしょうか？



日々一緒に頑張っている息子のために

大黒柱の私は、朝早くから夜遅くまで仕事をしないと生きていけないので、ずっと保育園で待っていてくれています。家族の時間よりも保育園の方が長く、寂しいだろうと申し訳ない気持ちで、いつもいっぱいです。

毎朝、保育園を嫌がり泣いていたのですが、3歳になり最近泣かずに保育園に行ける日も少し増えました。そしてつい昨日の夜のこと。「ママ、お仕事お疲れ様」と言ってくれ、息子にも「いつも保育園、お疲れ様」と伝えると、「ううん！ママがお仕事頑張ってるから僕にはお疲れ様はいらないよ！」と言ってくれたのです。これには泣きました。

そこで、一緒に頑張ってくれている息子に、何か喜んでくれる事はないかと考えていた時、このチャリティーサンタの事を見つけて、早速応募させて頂きました。